

# 銀座の朝

岡本綺堂

青空文庫



夏の日朝まだきに、瓜の皮、竹の皮、巻烟草まきたばこの吸殻さては紙屑ろうぜきなんどの狼籍ろうぜきたるを踏みて、眠れる銀座の大通にたたずめば、ここが首府みやこの中央かと疑わるるばかりに、一種荒涼の感を覚うれど、夜の衣ころもの次第にうすくかつ剥はげて、曙あけぼのの光の東より開くと共に、万物ばんぶつ皆生きて動き出ずるを見ん。

車道と人道の境界さかいに垂れたる幾株の柳は、今や夢より醒めたらんように、吹くともなき風にゆらぎ初そめて、涼しき暁の露をほろほろと、翻こぼせば、その葉かげに瞬またたき目するかと見ゆる瓦斯灯がすとうの光の一つ消え、二つ消えてあさ霧絶え絶えの間ひまより人の顔おぼろに覗のぞかるる頃となれば、派出所の前にいかめしく佇立たたずめる、巡査の

服の白きが先まず眼に立ちぬ。新たぼしの袂たもとに夜あかしの車夫が、寝の足らぬ眼を擦こすりつ驚おどろくばかりの大おお欠あくびして身を起せば、乞食か立ん坊かと見ゆる風ふう体てい怪かいしの男が、酔えるように踉蹌よろめき来りて、わが足あしもと下したに転まがりたる西瓜すいかの皮をいくたびか見返りつつ行過ぎのちし後、とある小おぐらき路次ろじの奥より、紙屑籠しりぞ背負せおいたる十二、三の小僧が鷹たかのようなる眼を光らせて衝つと出いでぬ、罪のかけはこの児この上を掩おおえるように思われて、その行末の何とやらん心こころも許となく物悲しく覚えらるるなり、早はやき牛乳配達ぎゅうにゅうはいだつと遅おそれたる新聞配達は、相前後して忙せわしげに人道を行違ちがう、時はいま午前ぜん三時。築地海岸にむかえる空は灰ほのしろ白しろく薄うす紅あかくなりて、服部の大時計の針が今や五時を指すと読よまるる頃には、眠れる街も次第に醒

めて、何処いづくともなく聞ゆる人の声、物の音は朝の寂静しずけさを破りて、商家の小僧が短みじか夜恨よがめしげに店の大戸がらと明あれば、寝衣ねまき姿媚すなまめきてしどけなき若き娘が今朝の早起を誇ほこり顔がおに、露ふくめる朝顔の鉢二つ三つ軒下に持出でて眼の醒むるばかりに咲揃あいたる紅白瑠璃るりの花を現うつつともなく見入れるさま、画かに描かばやと思う図なり。あなたの二階の硝子窓がらすまどおのずから明るくなれば、青あお簾なみの波紋なみうつ朝風に虫籠むしごゆらぎて、思おもい出したるなきだように啼出なきだすきりぎりす蟋蟀せせの一声、いづれも涼し。

六時をすぎて七時となれば、見わたす街は再び昼の熱鬧ねつとうと繁劇かえに復かえりて、軒をつらねたる商家の店すべは都だい道どうに向つて開あかれぬ。狼籍ろうぜきたりし竹の皮も紙屑いっも何時いつの間にか掃去はきさられて、水

うちたる煉瓦の赤きが上に、青海波を描きたる筈、目の痕清く、  
店の日除や、路ゆく人の浴衣や、見るもの悉く白きが中へ、紅き  
石竹や紫の桔梗を一荷に担げて売に来る、花売爺の笠の檐  
に旭日の光かがやきて、乾きもあえぬ花の露鮮やかに見らるるも  
嬉し。鉄道馬車は今より轟き初めて、朝詣の美人を乗せたる  
人力車が斜めに線路を横ぎるも危うく、活きたる小鯨うる魚商  
が盤台おもげに威勢よく走り来れば、月琴かかえたる法界節  
の二人連がきょうの収入を占いつつ急ぎ来て、北へ往くも南へ向  
うも、朝の人は都て希望と活気を帯びて動ける中に、小さき弁当  
箱携えて小走りに行く十七、八の娘、その風俗と色の蒼ざめたる  
とを見れば某活版所の女工なるべし、花は盛の今の年頃を日々の

塵埃ほこりと煤すすにうずめて、あわれ彼女かれはいかなる希望けいぼうを持てる、老た  
る親を養わんとにや。わが嫁入の衣裳いしやうの料しろを造らんとにや。

八時をすぐれば街はいよいよ熱鬧ちまたの巷ちまたとなりて、田舎者を待つ  
て偽物いかものを売る古道具商ふるどうぐや、女客を招いて恋を占う売卜者ばいぼくしゃ、小児  
を呼ぶ金魚商きんぎよや、労働者を迎うる氷水商こおりみずや、おもいおもいに露店  
を列べて賑わしく、生活のために社会と戦う人の右へ走り左へ馳は  
せて、さなきだに熱き日のいよいよ熱く苦しく覚うる頃となれば、  
水撒人みずまき足の車の行すぎたる跡より、大路おおじの砂は見る見る乾き  
てあさ露こぼを翻し尽したる路傍みちばたの柳は、修羅の巷の戦を見るに堪  
えざらんように、再び万丈の塵を浴びて枝も葉も力なげに垂れた  
り。



# 青空文庫情報

底本：「岡本綺堂随筆集」岩波文庫、岩波書店

2007（平成19）年10月16日第1刷発行

2008（平成20）年5月23日第4刷発行

底本の親本：「文芸倶楽部」

1901（明治34）年7月号

初出：「文芸倶楽部」

1901（明治34）年7月号

入力：川山隆

校正：noriko saito

2008年11月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 銀座の朝

岡本綺堂

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>